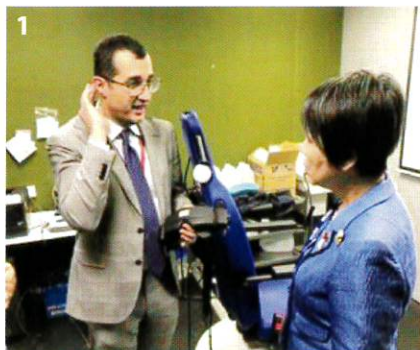




遅れている小児難聴問題を 何とかしたいとの強い思いで、 先進国オーストラリアの ヒアリング・ハブを訪問 (2019年9月)

オーストラリアは国を挙げての小児難聴問題への本格的な取り組みの結果、この20年間で一気に世界トップレベルに到達し、2001年には全豪でわずか6%の実施率であった新生児聴覚スクリーニングが2016年にはほぼ97%まで普及し、早期発見の聴覚障害の新生児は漏れなく専門家チームと家族の連携により人工内耳を装着後、切れ目ない療育を重ねることで、ことば(音声言語)の能力を獲得していきます。

その中核拠点が、シドニーにある3つの機関～①世界最先端の「ことばときこえのクリニック」②聴覚機器を開発製造しているココレア社、そして③オーディオロジスト教育のマッコリー大学～です。2019年9月10日、私はこれらの先を単身訪問しました。



1.世界最先端の「ことばときこえのクリニック」
2.聴覚機器を開発製造しているココレア社

帰国後、県立総合病院にて豪州視察報告 (2019年10月)

2019年10月、静岡県立総合病院の田中理事長他関係者の皆様に、豪州の驚異的成功事例を報告しました。豪州における生後1ヶ月での聴覚スクリーニング実施、3ヶ月および6ヶ月での難聴障害の早期発見と確定、1歳未満での早期治療、さらにその後の切れ目のない療育の継続。高度な医療技術を駆使した一連の聴覚障害治療を、国を挙げて実践するための研究教育の充実と社会インフラの整備。その中には難聴児を持つ親たちを含む、国民一般の啓蒙活動も含まれます。オーストラリアはそれを15年間という短期のうちに完成させたのです。

私は、日本においても豪州をモデルに、この問題に本腰を入れて取り組む必要があること、その際、静岡県の果たす役割が大きいこととお話し、そのための全面支援をお約束しました。



静岡県を日本の小児難聴の治療と療育の 一大拠点に! (2021年4月)

2021年4月、静岡県立総合病院に併設された先端医療棟リサーチサポートセンターを基盤として、静岡社会健康医学大学院大学が開校しました。小児難聴の専門教育への発展が期待されます。

この地域には他に県立子ども病院があり、難病の子どもたちが全国から治療のため集まっています。かけがえのない子どもたちの生命を育むために、今は立ち遅れが目立つ日本の小児難聴の分野においても、早期発見、早期治療、早期療育が高いレベルで進められるよう、静岡県や静岡病院機構には頑張ってもらわなければなりません。

今後、豪州など海外のヒアリング・ハブの各機関とも連携協力を図り、静岡県が小児難聴治療と療育の日本の中核となるよう、私も関係者の皆様と協力し、全力で取り組んでまいります。

(上川陽子記)

静岡県議会に難聴対策推進議員連盟 設立 (2021年1月)

その後、静岡県議会に自民党難聴対策推進議員連盟(山田誠会長)が発足し、県行政に対し予算要望するとともに、2021年1月には国に対し「乳幼児難聴対策支援」が要望されました。

要望書は厚生労働省及び文部科学省に提出され、私からも小児難聴の早期発見・早期治療・早期療育の環境整備に、スピード感を持って取り組むよう強く要請しました。



静岡県自民党難聴対策推進議員連盟から要望

